

2027年3月期第1四半期 決算概要

2026年10月23日
宝ホールディングス株式会社

1. エグゼクティブサマリー

2. 2027年3月期 第1四半期 業績

2-1. 宝ホールディングス（連結）

2-2. 宝酒造

2-3. 宝酒造インターナショナルグループ

2-4. タカラバイオグループ

・ 第1四半期業績：前期比 増収減益

○宝酒造・宝酒造インターナショナルグループは前期比で増収増益。

宝酒造インターナショナルグループ
海外日本食材卸事業
販管費率 : 27.2% (前期27.6%)
売上総利益率 : 29.8% (前期29.8%)

○タカラバイオグループは、
2025年1月に買収したCurio社の株式取得取引に伴う契約に基づき、
Spatial製品の開発進捗に係る対価を見直したことにより、販売費及び
一般管理費が増加し、営業損失が拡大した。

タカラバイオグループ
人員の最適化を目的とする希望退職の
募集実施に伴い、
特別損失16億5,500万円を計上
(前回予想：上期累計で14億4,400万円)

○宝ホールディングス連結における親会社株主に帰属する四半期純利益は、
タカラバイオにおける希望退職者の募集に伴う割増退職金などの事業構造改革費用や、
公開買付関連費用などの特別損失を25億9,000万円計上した影響が大きく、
法人税計算において、法人税等調整額ではタカラバイオの完全子会社化に伴う
グループ通算制度への加入により、繰延税金資産を計上したものの、減益となった。

1. エグゼクティブサマリー

2. 2027年3月期 第1四半期 業績

2-1. 宝ホールディングス（連結）

2-2. 宝酒造

2-3. 宝酒造インターナショナルグループ

2-4. タカラバイオグループ

(百万円)

	2027年3月期 第1四半期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
売上高	103,207	9,858	+ 10.6
売上総利益	33,264	2,366	+ 7.7
営業利益	2,949	▲ 506	▲ 14.7
経常利益	3,157	▲ 314	▲ 9.1
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	3,630	▲ 514	▲ 12.4

	2027年3月期 第1四半期 実績	2026年3月期 第1四半期 実績
海外売上高比率 (タカラバイオグループ除く)	65.1% (63.9%)	62.1% (60.9%)

(百万円)

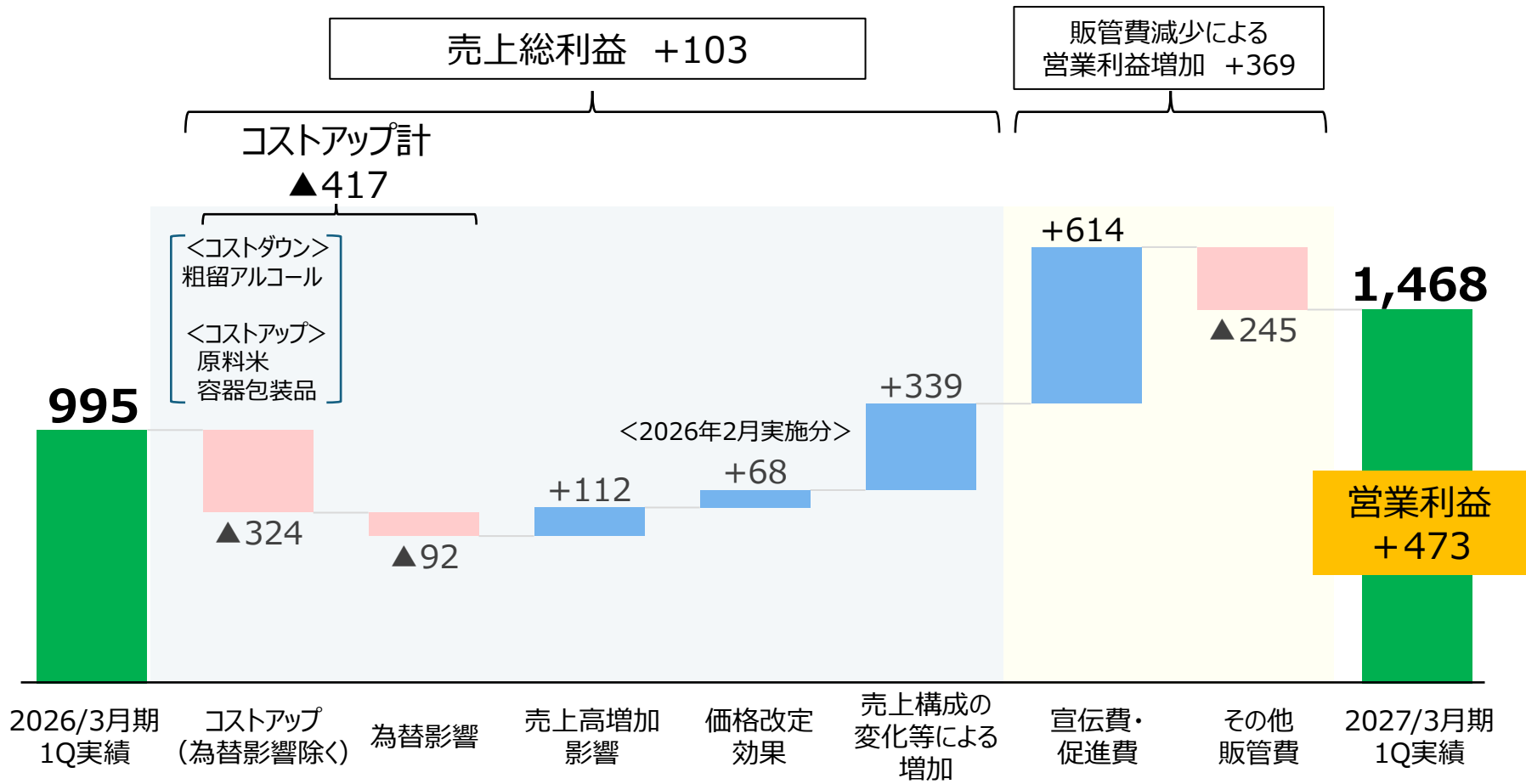
	2027年3月期 第1四半期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
焼酎	8,161	67	+0.8
清酒	2,002	13	+0.7
ソフトアルコール飲料	11,496	850	+8.0
その他酒類	1,164	99	+9.3
本みりん	2,485	83	+3.5
その他調味料	2,376	66	+2.9
原料用アルコール等	2,559	▲ 454	▲ 15.1
売上高	30,245	724	+2.5
売上総利益	7,498	103	+1.4
営業利益	1,468	473	+47.5
経常利益	1,473	447	+43.7
四半期純利益	1,583	888	+127.9

概要

- ・売上高 : 原料用アルコール等が減少したが、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料や、本みりんなどの調味料が増加した結果、増収
- ・売上総利益 : 原料米や容器包装品のコストアップ、為替等の影響により売上原価が増加したものの、売上高の増加や売上構成の変化等により、増加
- ・営業利益 : 広告宣伝費などの販売費及び一般管理費が減少し、増益

原料米や容器包装品、為替影響によるコストアップがあったものの、売上高の増加や価格改定効果、売上構成の変化等による増加があり、売上総利益が増加。加えて、広告宣伝費等の販売費及び一般管理費の減少もあり、増益

◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



(百万円)

		2027年3月期 第1四半期 実績	前期比	
			増減	率 (%)
宝酒造 インターナショナル グループ	売上高	60,334	8,881	+17.3
	売上総利益	19,851	2,514	+14.5
	営業利益	3,937	285	+7.8
うち 海外酒類事業	売上高	7,186	293	+4.3
	売上総利益	3,775	▲ 53	▲ 1.4
	営業利益	2,939	▲ 63	▲ 2.1
うち 海外日本食材 卸事業	売上高	53,779	8,561	+18.9
	売上総利益	16,035	2,545	+18.9
	営業利益	1,397	403	+40.6
宝酒造 インターナショナル グループ	経常利益	4,078	880	+27.5
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,582	547	+26.9

概要

- ・売上高 : 海外酒類事業は、バーボンウイスキーを販売するアメリカのエイジ・インターナショナル社が堅調に推移し増収

海外日本食材卸事業は、外食市場がゆるやかな回復基調にある中、価格改定効果や、アメリカでの新規拠点の上乗せ、円安の寄与などもあり増収

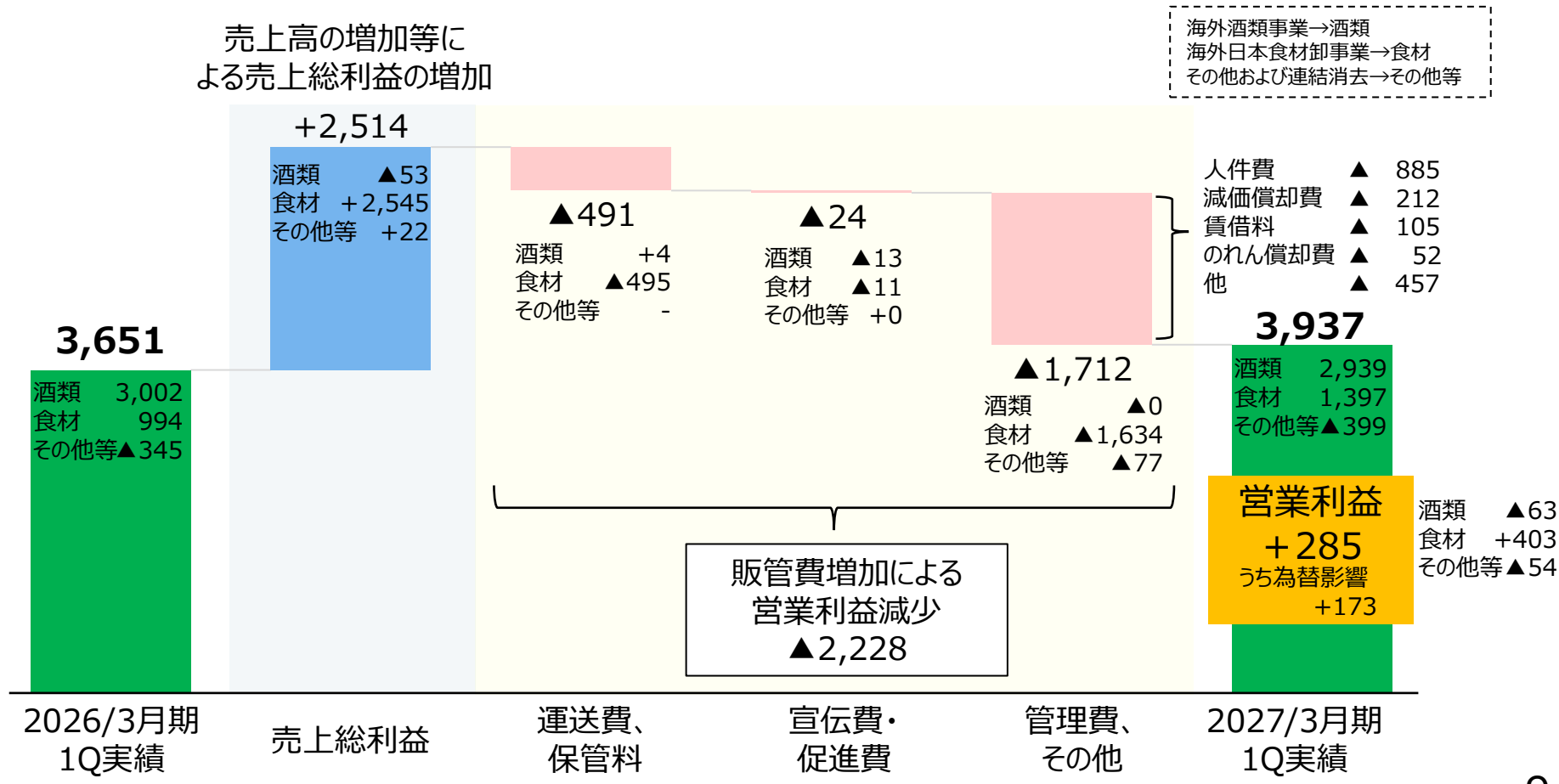
宝酒造インターナショナルグループ全体でも増収
- ・売上総利益 : 売上高の増加に伴い、増加
- ・営業利益 : 海外酒類事業は、エイジ・インターナショナル社において前々期に発生した大幅な価格改定に伴う一時的な利益の上乗せが前期にあったことにより減益

海外日本食材卸事業は、売上高の増加に伴い売上総利益が増加するとともに、人件費などの販売費及び一般管理費の増加抑制に努めたことで増益

宝酒造インターナショナルグループ全体でも増益

海外酒類事業では、売上総利益の減少により減益となるが、
海外日本食材卸事業で売上総利益が増加し、人件費等の販売費及び一般管理費が増加するものの増益となり、
宝酒造インターナショナルグループ全体でも増益となる。

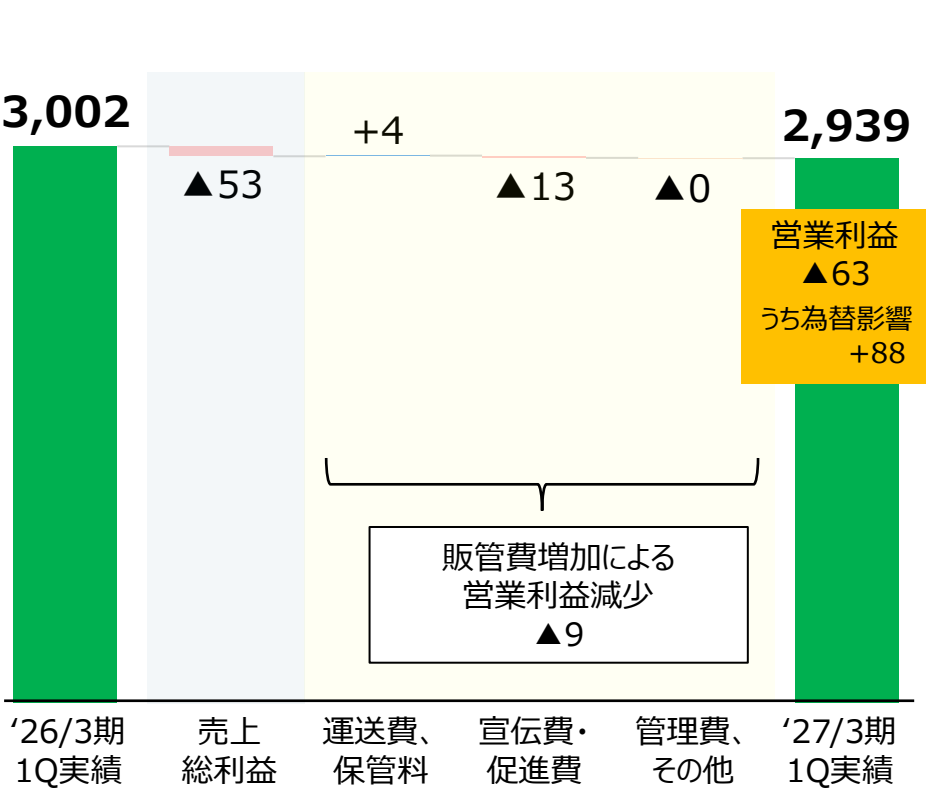
◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）

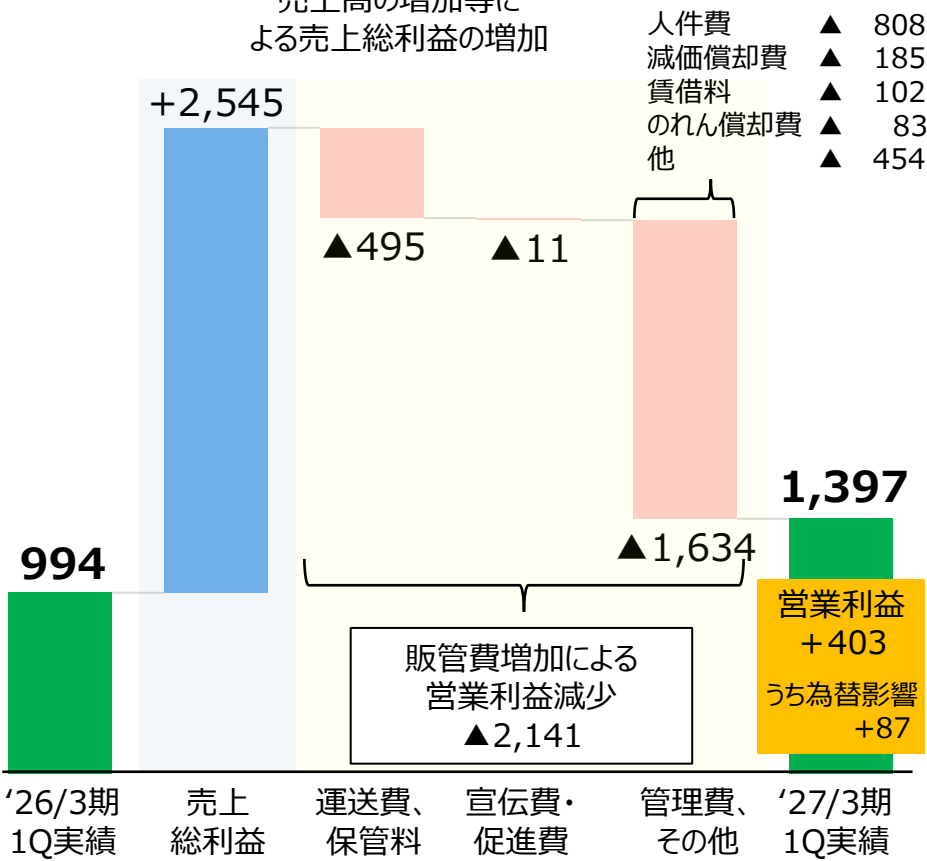
■ 海外酒類事業

売上構成の変化等による売上総利益の減少



■ 海外日本食材卸事業

売上高の増加等による売上総利益の増加



(百万円)

	2027年3月期 第1四半期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
試薬	6,922	▲ 63	▲ 0.9
機器	120	▲ 53	▲ 30.6
受託	651	▲ 527	▲ 44.7
遺伝子医療	1,509	581	+ 62.7
売上高	9,204	▲ 62	▲ 0.7
売上総利益	4,546	▲ 457	▲ 9.1
営業利益	▲ 3,384	▲ 1,587	—
経常利益	▲ 3,475	▲ 1,637	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	▲ 3,311	▲ 1,799	—

概要

- ・売上高 : 試薬は、為替による増収効果はあるものの、米国における研究助成金削減の影響や前期にBtoBの大口受注があったことの影響等により減収。

機器は、シングルセル解析システムの販売減少等により減収。

受託は、再生医療等製品関連受託で前期に大口受注があったことの影響等により減収、遺伝子解析／検査関連受託では納期の変更や新規受注案件の不足などにより減収、全体でも減収。

遺伝子医療は、遺伝子治療薬製造補助剤であるRetroNectin®やmRNA合成用酵素が拡大し、増収。

グループ全体では、受託の減少影響が大きく減収
- ・売上総利益 : 売上構成の変化や未実現利益の消去の影響により、減益
- ・営業利益 : 販売費及び一般管理費が、2025年1月に買収したCurio社の株式取得取引に伴う契約に基づき、Spatial製品の開発進捗に係る対価を見直したことにより、販売費及び一般管理費が増加し、営業損失が拡大

■ 試薬事業 地域別外部売上高 (百万円)

	2027年3月期 第1四半期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
日本	1,262	21	+ 1.7
米国	3,238	▲ 365	▲ 10.1
欧州	994	160	+ 19.3
中国	884	80	+ 10.0
韓国	250	▲ 11	▲ 4.3
インド	292	50	+ 21.1
合計	6,922	▲ 63	▲ 0.9

- ・日本： アカデミアを中心に市況が引き続き低調で、ライフサイエンス研究の停滞が続いており、ほぼ前期並の水準
- ・米国： 前年同期は第2次トランプ政権が発足した時期で、ライフサイエンス業界への政策影響がまだ限定的であったが、今期は同政権による研究助成金削減や政府機関の人員削減などが影響し、研究用の試薬製品の売上は減収。遺伝子検査や診断薬の原材料販売などのBtoBでは、前年同期に大口の売上があったため、その反動で減収。Spatial製品は、欧州向けを中心に販売が伸び、増収。以上により、米国全体でも減収
- ・欧州： インフレの影響や地政学的リスクの影響などにより研究開発投資が低迷しているものの、BtoBの売上が伸長し、増収
- ・中国： 中国国内市場の低迷や中国国内企業との価格競争は引き続き継続しているものの、増収
- ・韓国： 政府研究費予算の支給が遅れていることなどから、減収
- ・インド： 現地製造製品の販売が引き続き好調に推移しており増収
- ・合計： 米国の減少影響が大きく、試薬全体でも減収

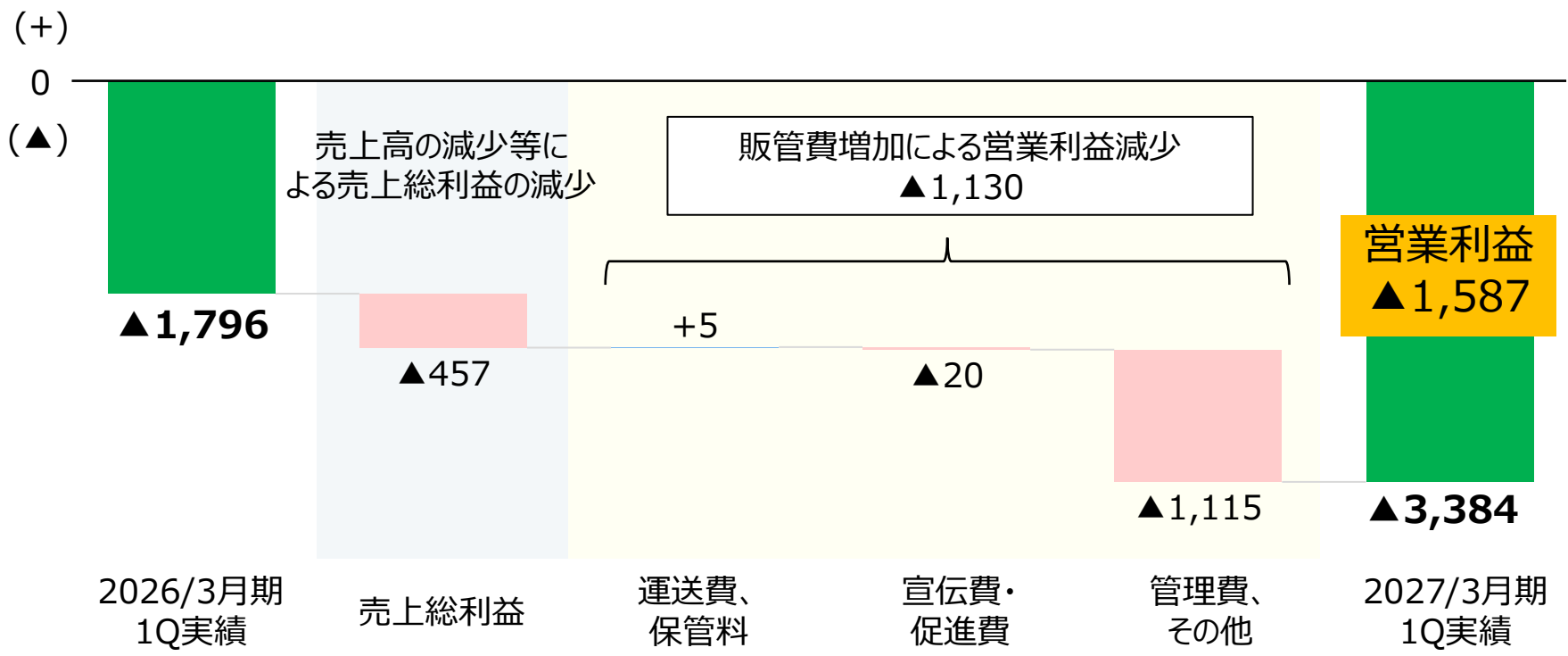
■ 受託事業 売上高 (百万円)

	2027年3月期 第1四半期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
再生医療等製品	354	▲ 436	▲ 55.1
遺伝子解析/検査	223	▲ 47	▲ 17.6
その他	73	▲ 43	▲ 37.2
合計	651	▲ 527	▲ 44.7

- ・再生医療等製品： 前期に大口受注があったことの影響等により減収
- ・遺伝子解析/検査： 納期の変更や新規受注案件の不足などにより減収
- ・合計： 全体でも減収

売上高の減少等により売上総利益が減少することに加え、Curio社の株式取得取引に伴う契約に基づき Spatial製品の開発進捗に係る対価を見直し、費用として「管理費、その他」に計上したことで販売費及び一般管理費が増加し、減益

◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ先＞

宝ホールディングス株式会社

広報・I R 部

E-Mail ir@takara.co.jp

TEL 075-241-5124